

日本の教育に関する外国人の視点 - ウィリアム・グリフィスと日本における 1870 年代の教育改革

要旨：

明治維新は日本の社会制度を劇的に変化させるものであった。新政府は当時欧米列強が優勢であった国際社会において対等な一員として認められ不平等条約を撤廃するため、日本の近代化に向けて数々の改革を試みた。その一環として、政府が多くの外国人専門家、いわゆる「お雇い外国人」を雇用し、近代技術、手法、知識を日本に導入した。1870 年代に日本で雇われた外国人のなかで最も著名な一人がアメリカ人教育者ウィリアム・グリフィスである。1870 年から 1874 年の期間日本で職務に就いたグリフィスは、西洋知識の日本伝達に寄与するだけでなく、西洋にも日本に関する知識を広めた。今回の講演では、横浜で発行される英字新聞ジャパン・ウイークリー・メイルに 1873 年末から 1874 年初頭にかけて掲載された、「日本の教育」に関するグリフィスの一連の記事に注目したい。グリフィスは教育改革や日本の進歩全般をどのように描いたのか検証し、知識の媒介者として西洋の専門家や新聞が果たした役割、グリフィスの各種寄稿等が 1870 年代の西洋における「新生日本」像の形成に貢献した様子を考察する。

キーワード：明治維新 - 教育改革 - ウィリアム・グリフィス - 新生日本 - 条約港 - ジャパン・ウイークリー・メイル